



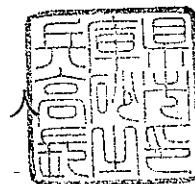
高都計第 552 号の 2

平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

兵庫県高砂市長

登 幸



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付 国道企第 37 号で依頼のありましたことについて、別紙のとおり回答します。

以 上

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- 1 国土の骨格を形成する高規格幹線道路網の整備、及び地方の遅れている道路整備や着実な維持管理のために、不可欠である地方道路整備臨時交付金制度の更なる拡充をはじめ、必要な財源を継続的かつ安定的に確保していただきたい。
- 2 わが国の国際競争力の強化に資する播磨臨海地域道路を、国土形成計画の広域地方計画や道路の中期計画等に位置づけるとともに、早期事業化を図っていただきたい。
- 3 播磨臨海地域道路の早期実現に向けて、パブリックインボルブメント（P I）を実施し、早期に計画策定していただきたい。

○現状

(1) 脆弱な広域幹線道路

本市を含む播磨臨海地域（姫路市、高砂市、加古川市、稲美町、播磨町及び明石市）の交通を担っている主要幹線道路である国道2号バイパス及び国道250号の1日の交通量は、高砂市域で約164千台、それに対し設計基準交通量は約76千台で、約88千台が不足している。（H17調査）

国道2号バイパスを単に通過するだけの交通は、わずかに7%で、ほとんどが播磨臨海地域に出入りするための交通である。

また、国道2号バイパスを通過している交通の山陽自動車道への転換については、ほとんど転換しないと予想されている。

(2) 脆弱な市内幹線道路

かつて鉄道と港が主な手段であった物流は、市内の幹線道路網が6割弱しか完成しておらず、市中北部を通る東西幹線道路及び南北幹線道路が日々渋滞している。

○課題

産業関連交通と生活関連交通が混在していること及び容量不足に起因して、東西の幹線道路に加え南北道路が慢性的に混雑しており、定時性の喪失による地域産業の競争力の低下をはじめ、交通事故の増加や子どもが危険にさらされる通学路への車の流入など生活環境の悪化が顕在化している。

市内では渋滞と併せて、生活道路への産業関連交通の流入などが常時発生し、環境面、交通安全面などとともに市民生活に問題が発生している。

②-2 地域の目指すべき将来像

(1) 周辺地域との連携強化などの創意工夫によって、持続可能で自立できる自治体を目指す

地方分権が実行段階を迎えている中で、都市間競争が激しくなっており、画一的、横並び型のまちづくりではなく、それぞれのまちの個性を生かし、周辺地域との連携強化、創意工夫によって地域にふさわしい市民サービスを提供することによって市民満足度を高め、持続可能で自立できる自治体を目指す。

(2) 心豊かな生活重視のまちづくりを目指す

高砂市の繁栄の歴史に問うまでもなく、かつては人、地域、産業、文化のすべてが生き生きとしていた。それは、今日も脈々と受け継がれているが、閉塞感のうちに潜在化しているようにも感じる。その潜在化している元気を、もう一度今ここに呼び起こそうと考えている。人を元気に、まちを元気に、産業を元気にしていく。そして、まちに活力をよみがえらせ、人と自然が調和し、文化や産業に恵まれた豊かな市民生活の実現による「心豊かな生活重視のまちづくり」を目指す。

(3) 社会基盤や地域資源を活用しながら産業と地域の活性化を目指す

これまで築きあげてきた本市の特性や貴重な自然、長年にわたって培われた歴史と文化を最大限に生かしながら、「高砂」の言葉の響きを大切に、住んでよかったと自慢できるまちを共に創り、育て、そして新たな価値を加えながら、より質の高い魅力的なまちとして、次の世代へ伝え、継承していく。

このことから、快適で賑わいのある水辺空間を提供し、市民生活にいやしと安らぎを与えること、港湾・道路などの社会基盤や地域資源を活用しながら産業と地域の活性化を図ることを目的とした「高砂みなとまちづくり構想」を策定し、構想の実現に向けた取り組みを行っている。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

兵庫県高砂市

重点事項	代表事例	期待する効果や評価等	その他
・都市間を結ぶ広域的な道路整備とアクセス道路整備 ・産業の活性化 ・住環境の向上	播磨臨海地域道路の整備	① 知的生産拠点と高度な製造拠点の直結による次世代産業の創出、ひいてはわが国の競争力の強化に資する。 ② 神戸西バイパスや大阪湾岸道路西伸部などとの連結による、関西国際空港やスーパー中枢港湾阪神港など国際物流拠点へのアクセス化、および臨海部の再活用や物流の効率化による地域の競争力強化（日本経済成長への寄与）に資する。 ③ 道路交通の定時性と信頼性の確保に伴う通勤圏の拡大による定住化促進、及び連携促進による地域の自立 ④ 環状機能の付加による山陽自動車道など既存道路の効率的活用に資する。 ⑤ 渋滞の減少、港湾及び鉄道など既存ストックの有効活用によるモーダルシフトの促進による豊かな生活環境の創造 ⑥ 本格的な補修時期にきている国道2号バイパスの代替路の確保に資する。 ⑦ 国土軸である山陽軸の強化による国土および地域の防災・減災機能の強化、また生活交通と産業交通の分化により交通事故の減少が期待されるなど安全・安心の確保に資する。 ⑧ 世界文化遺産、国宝姫路城をはじめとする200近くにも及ぶ文化歴史遺産、そして最先端の産業資産までを活用したビジットジャパンを推進する国際広域観光ネットワークの構築に資する。 ⑨ ①～⑧に加えて、高砂市では産業関連交通を分担する道路となり、2号バイパス（生活関連交通）との差別化に資する。	道路は、目指すべき将来像を実現するための根幹的なインフラであり、都市のバロメーターであると考えている。
	(都)高須松村線の整備	① 播磨臨海地域道路の副道的機能 ② 産業関連交通の住宅地混入防止 ③ 姫路市東部臨海地域との連携強化による産業活性化 ④ 県道明石・高砂線の渋滞緩和	